



株式会社エムニ オンラインウェビナー

AIで侵害予防調査を効率化せよ。

図面・構造式からパラメータまで、技術理解に特化した侵害判定AI

2026年 9月 24日
12:00~12:45

本日の進行について



Q&Aについて

ご質問はZoomチャットに随時ご入力ください。
セッション終了後に
まとめて回答いたします。



録画について

本ウェビナーは録画しております。
アーカイブ動画は後日公開します。
ご自身での録音・録画・スクリーン
ショットはお控えいただきますよう
お願い致します。



マイク・カメラ

参加者の皆様は視聴中、カメラ及び
マイクはオフをお願いいたします。



アンケート

ウェビナー終了後、Zoomからアン
ケートが送信されます。
回答いただいた方へ、
本日投影の資料を送付いたします。

INDEX

1. オープニング : 5分 【12:00 ~ 12:05】
2. 問題提起 : 10分 【12:05 ~ 12:15】
3. 解決策・デモ : 20分 【12:15 ~ 12:35】
4. Q&A : 10分 【12:35 ~ 12:45】

※質問は随時チャットで受け付けております

自己紹介

山本 夏彦

- (株)VRAIN Solutionにて製造業×AIの領域でキャリアをスタート。
- その後、(株)リクルートにて法人営業及び新規事業開発に従事。
- 現在はエム二で知財領域の事業開発を担い、
製造業の知見を活かして、実務に根ざしたプロダクトづくりを
推進している。



自己紹介

下野 祐太

- 京都大学大学院エネルギー科学研究科応用科学専攻 修了。
- (株)松尾研究所にて製造業向けのAI社会実装に3年間従事。
- その他、AI企業でのプロジェクト経験多数。

Forbes Japan 30 Under 30 2025受賞。





会社概要

Using Generative AI To Drive Industry 5.0 Transformation

京都大学発 松尾研発 スタートアップ



京都大学



松尾研究所

東京大学 松尾豊教授による弊社のご紹介

製造業へのAI活用に特化したスタートアップ

代表の下野氏は松尾研究所で3年間、製造業向けAI社会実装に深く携わってきた経験を持ち、その豊富な知識と実績が大きな強みとなっています。

共同創業者の後藤氏をはじめ、有名ITメガベンチャーでのプロジェクト経験を持つメンバーが多数在籍しており、技術力と創造性に溢れたチームを形成



技術顧問
東京大学大学院工学系研究科
松尾豊 教授

会社名

株式会社エムニ

主要取引銀行

三井住友銀行 上野支店

設立日

2023年10月31日

連絡先

info@emuniinc.jp

代表取締役

下野祐太

東京オフィス

〒101-0031 東京都千代田区東神田1丁目11-5 石田ビル東神田3F

従業員数

160名（インターン・業務委託含む）

京都オフィス

〒606-8307 京都市左京区吉田上阿達町17番地 地域経済牽引拠点 3 階

組織構成

素早いPoCの実施に加え、安定稼働できるシステム開発も提供可能な組織



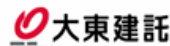
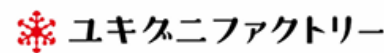
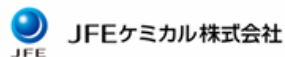
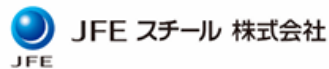
知財の現場から生まれるAIソリューション

オーダーメイドAIで培ったノウハウをパッケージ化し、類似の課題を素早く解決



製造業のエンタープライズ企業を中心に、AI活用による効率化を実現

※一部抜粋



An aerial photograph of a large industrial complex, likely a refinery or chemical plant, taken at dusk. The scene is dominated by numerous large, cylindrical storage tanks and several tall, striped smokestacks. Plumes of white smoke or steam are visible rising from some of the industrial structures. In the background, a city skyline and a body of water are visible under a twilight sky with soft clouds. A thin blue vertical line runs through the center of the image.

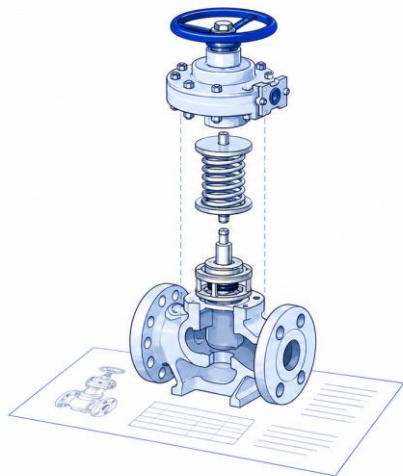
問題提起

Using Generative AI To Drive Industry 5.0 Transformation

侵害予防調査とは

「自社製品が、他社の特許権を侵害する可能性」を調べる調査

自社製品仕様

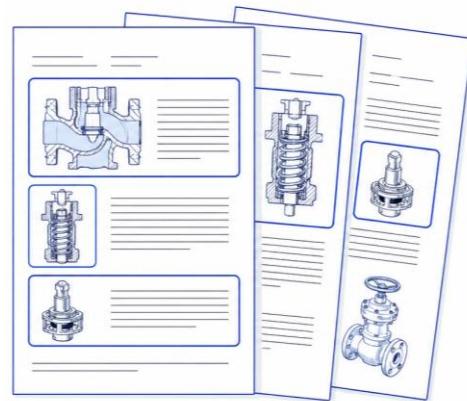


構成要素を照合



侵害可能性を判断

他社特許の請求項



技術の理解と、知財の観点の両方が求められる

見落とせないから、読解の手間がかかる

見落としが許されない



対象を一件ずつ確認



読解・判定に工数がかかる



見落としがあると…

設計の手戻り

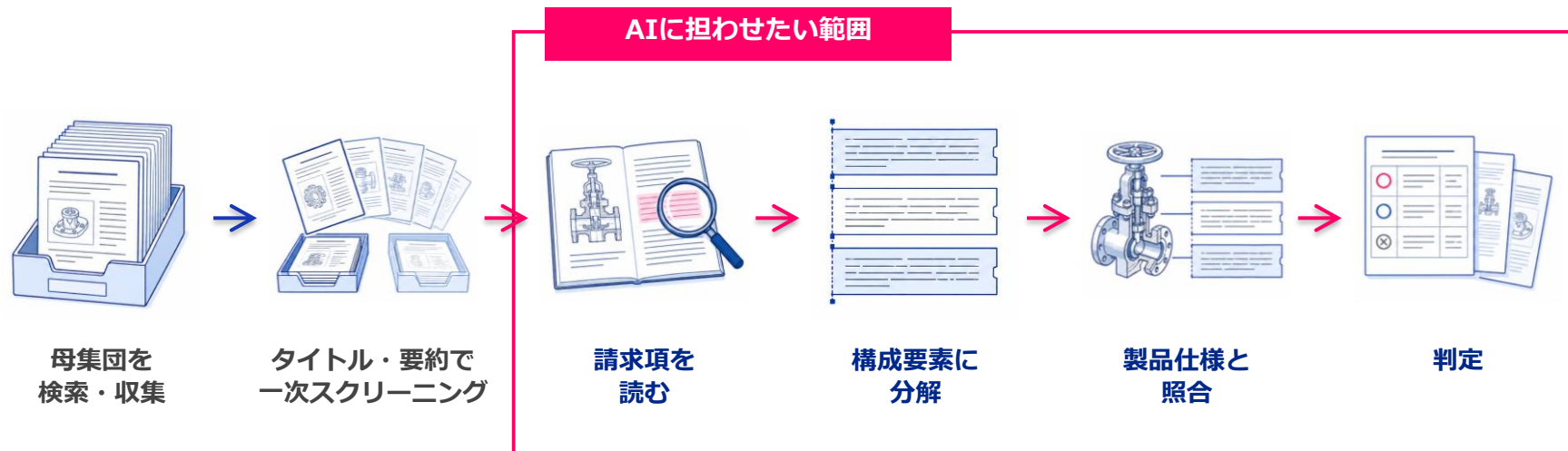
発売計画への影響

場合によっては
訴訟・損害賠償



AIで効率化したいのは、一件ずつの読解・判定

調査の流れの中でも、後半の読解・判定をAIに担わせることが、本質的な業務効率化につながる



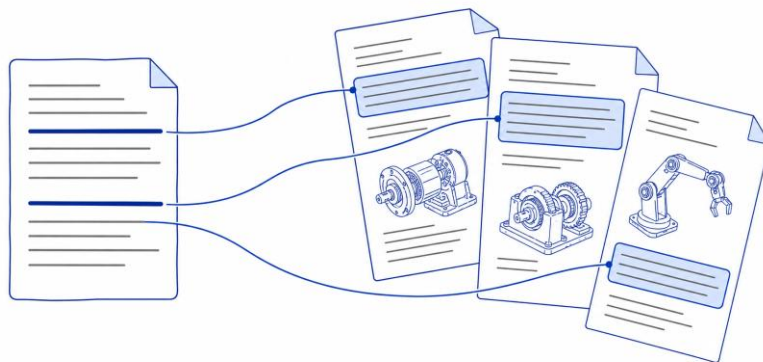
この範囲をAIが担えれば、調査時間/コストの大幅な削減が期待できる

従来技術のアプローチと限界

セマンティック検索を軸にした従来ツール

自由文・キーワード

意味が近そうな箇所



類似する候補や箇所を集めて、
可視化する機能が充実

ただし

- ・ 技術的な文脈での製品仕様との照合
- ・ 知財的な文脈での読解・判定 は残る
技術的な対応、上位概念、均等論など



母集団の
検索・収集



一次
スクリーニング



請求項を
読む



構成要素に
分解



製品仕様と
照合



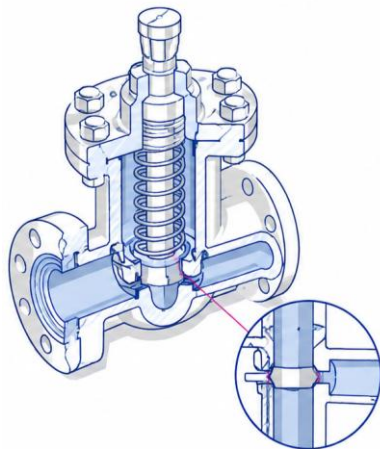
知財も含め
判定

候補抽出から、請求項の読解・構成要素の分解まで

技術的な観点/知財的な観点での判定に負荷

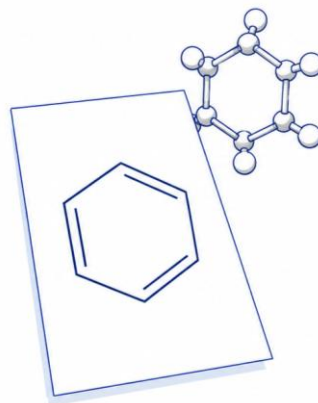
業界や案件によっては、さらに複雑な判断も

扱う技術情報によっては、文章の類似性だけでは捉えきれないものも



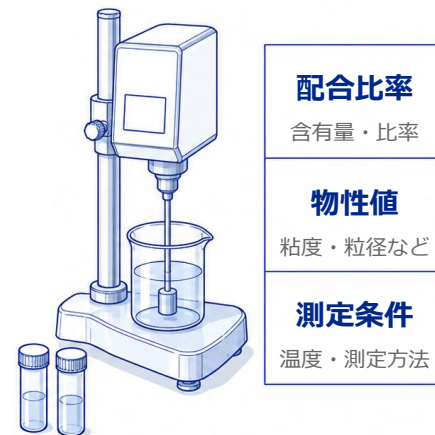
図面

構造・動作・位置関係



化学構造式

骨格・置換基などの関係

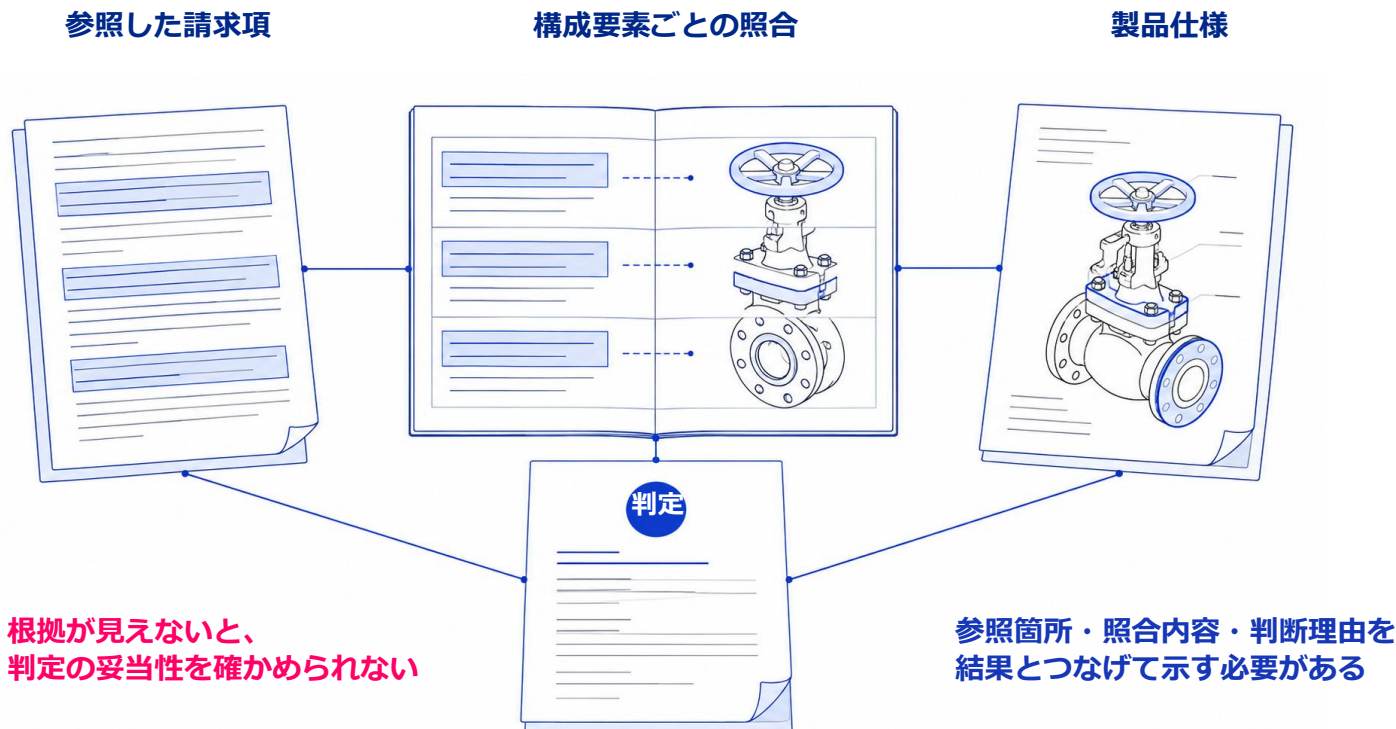


配合比率
含有量・比率
物性値
粘度・粒径など
測定条件
温度・測定方法

パラメーター

配合比率・物性値・測定条件

AI判定のブラックボックス問題



侵害予防調査AIに必要な3つの要件

先述の課題から、侵害予防調査をAIで担うためには以下の要件を満たす必要がある

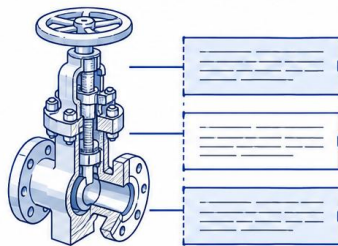
01



**一件ずつ読み、
判定まで担える**

類似した文章の検索ではなく、
特許1件ずつの読解から判定まで

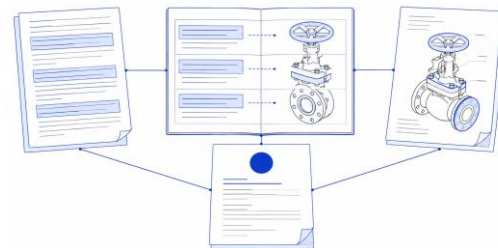
02



**技術と知財を
踏まえて判断できる**

自社製品の技術仕様への理解
上位概念や均等論といった専門的判断

03



**判断の根拠や
過程が見える**

参照箇所・照合内容・判断理由

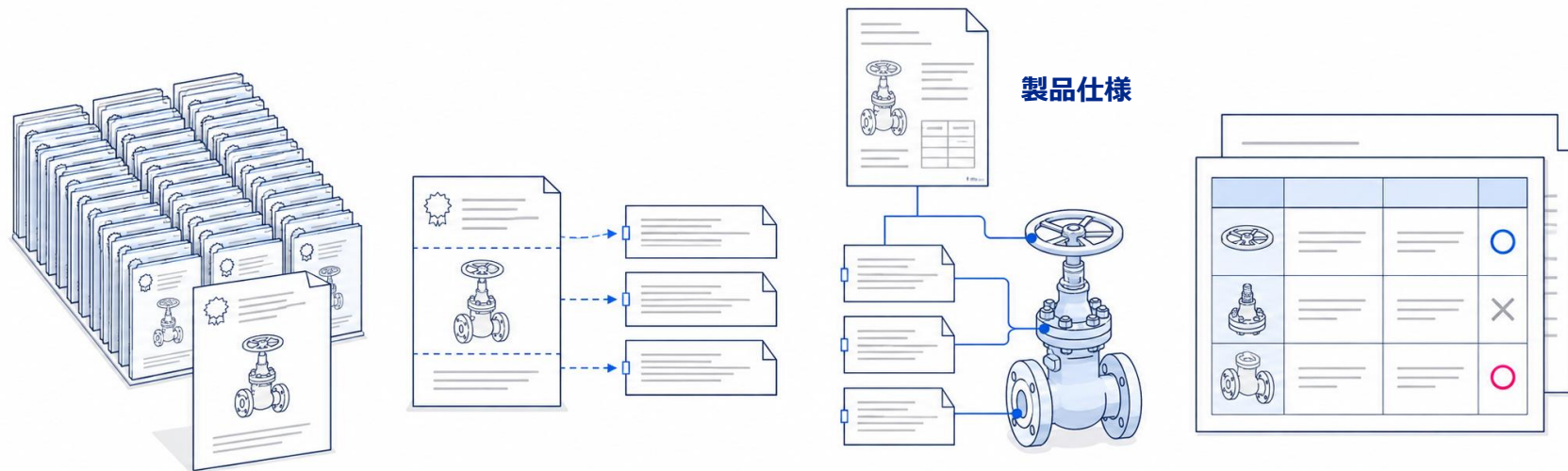


解決策

Using Generative AI To Drive Industry 5.0 Transformation

対象特許を一件ずつ精読・判定

指定した特許母集団1件1件に対して、請求項と製品仕様を照合



指定した母集団の
全件を読み込む

請求項を分解し
技術的に解釈

製品仕様と
構成要素を照合

クレームチャートで
対応関係・判定を出力

技術的な意味を捉え、製品仕様と照合

請求項と製品仕様を理解し、技術的な意味で対応付け

請求項

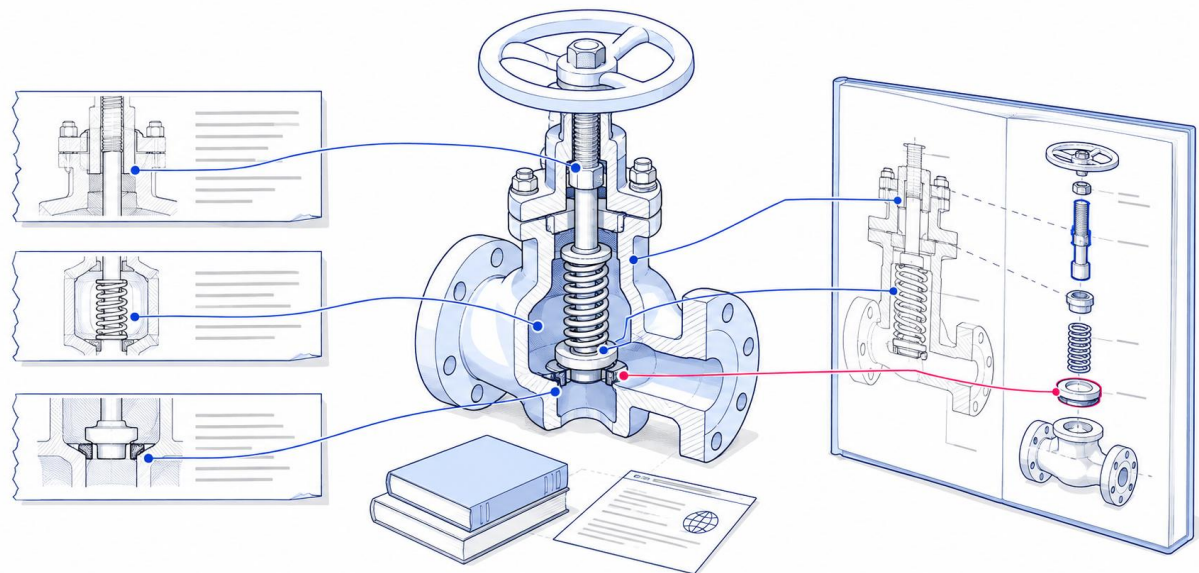
製品仕様

特許が述べる
技術的な意味

キーワードと文章構造から
構造・動作を解釈

解釈を支える情報

LLMの技術知識
Webの技術情報

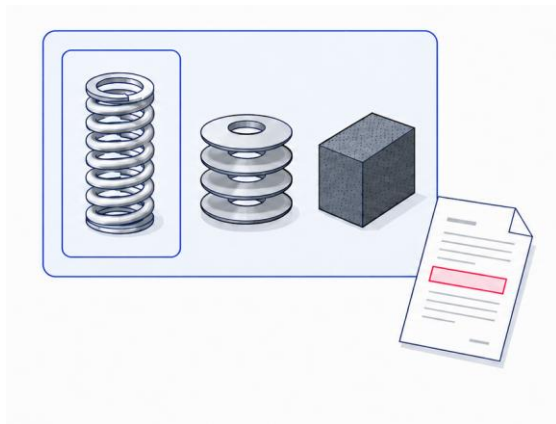


製品仕様も、構成要素ごとに照合

知財の文脈での専門的判断

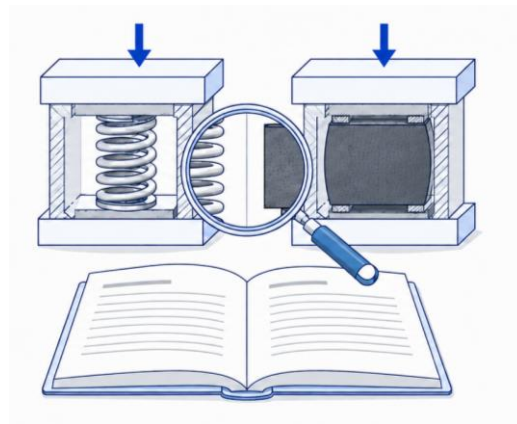
上位概念による充足や均等論の可能性まで、知財の文脈で評価

上位概念の解釈



具体的な部品が、請求項の
概念に含まれるか

均等論の検討

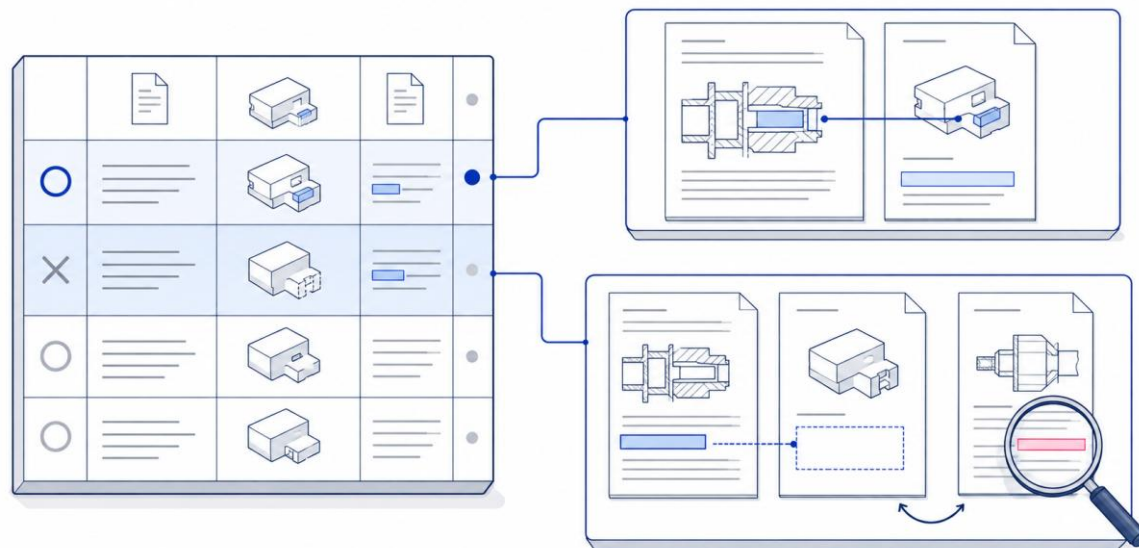


構成が異なる場合も
均等侵害の可能性を評価

充足・非充足・均等論の可能性を、理由とともに整理

根拠や過程を可視化

AIの判定根拠や過程を、担当者が確認できるよう可視化



該当とした理由

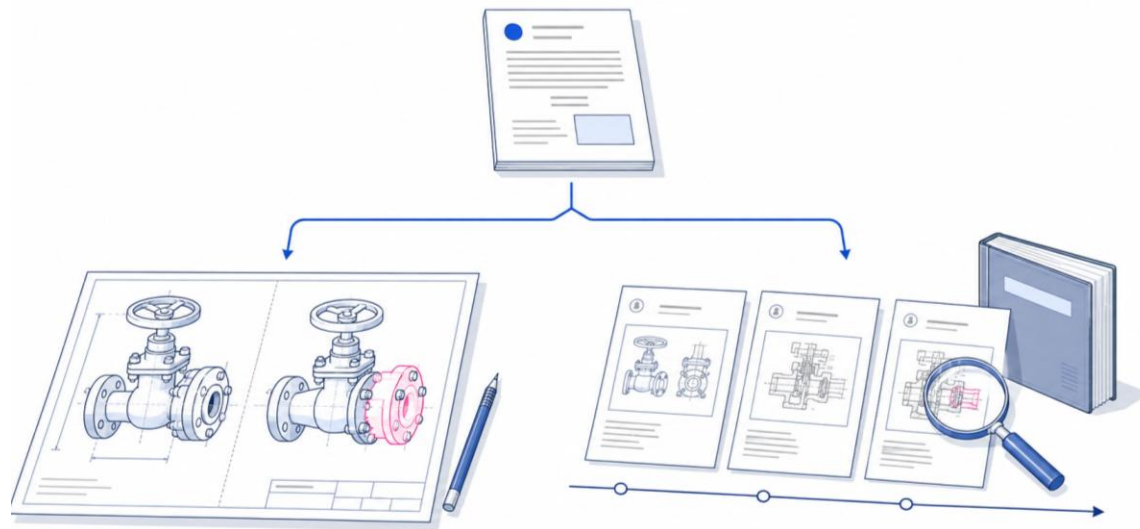
対応する記載
技術・知財上の判断理由

除外した理由

非充足とした箇所
反証の確認結果

対応方針の提示

判定結果に応じて、回避設計や無効資料調査などの対応案を提示



回避案の提示

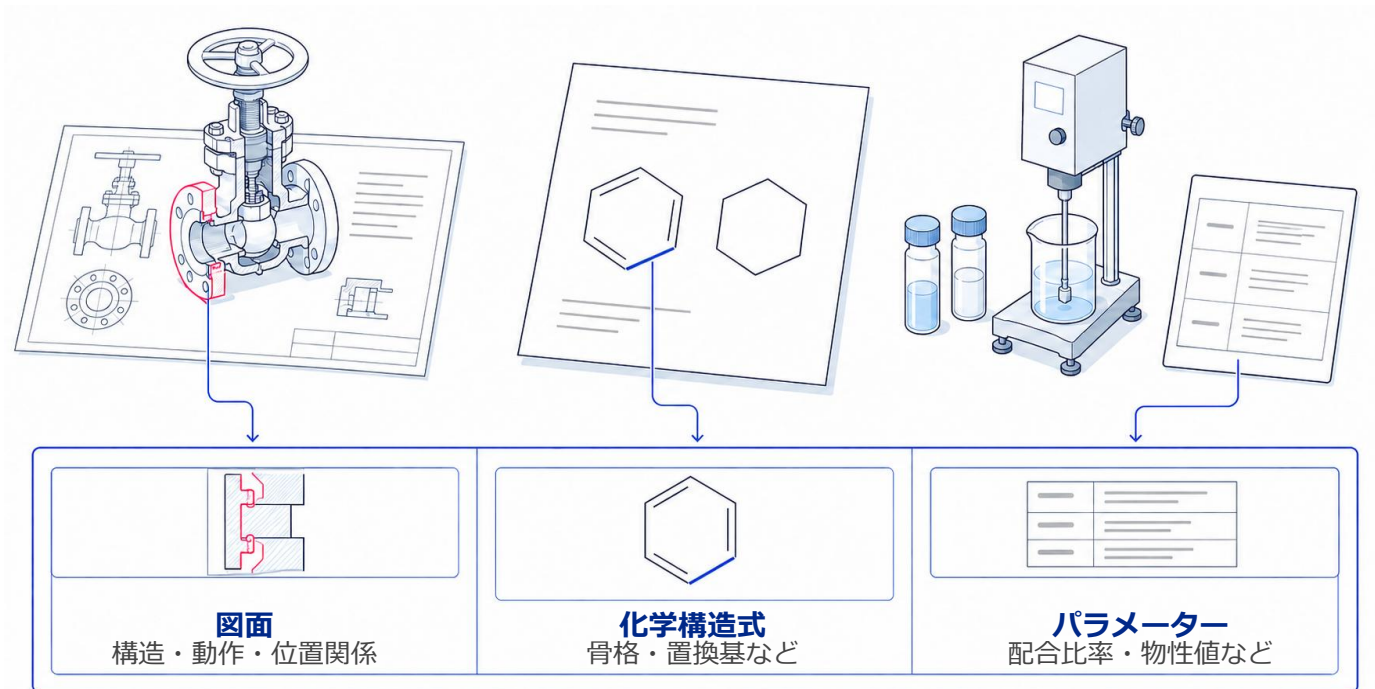
充足する構成要素の変更案

無効資料調査の提案

回避が難しい場合の調査方針

発展事例：数値や画像情報を用いた判定

図面・化学構造式・パラメータなど、案件固有の技術情報に合わせた判定ロジック



実務での活用イメージ

AIの処理目安

3,000 件を 約1~2時間

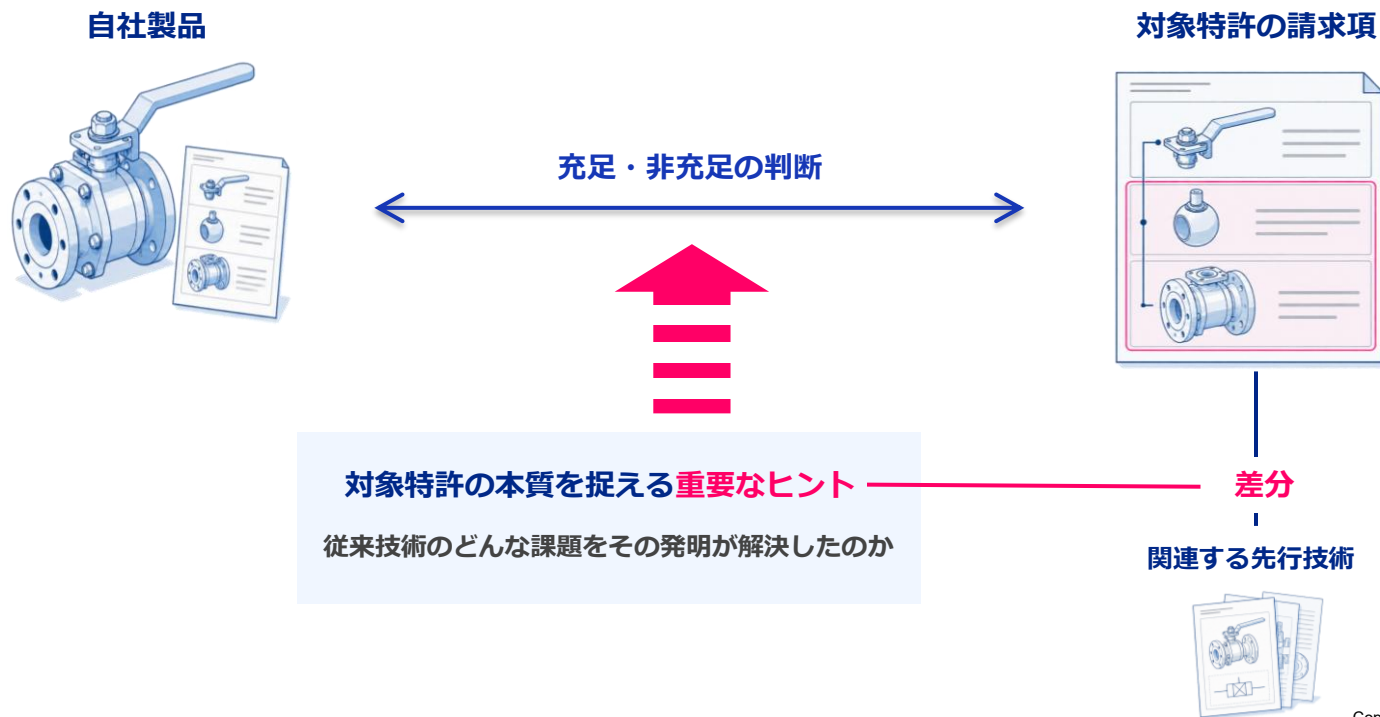


中国特許など海外文献にも対応

根拠資料をもとに、担当者が最終確認

侵害予防調査×先行技術調査による精度向上（今後追加予定）

他社特許に関わる先行技術調査を同時に実施することで、他社特許の本質・権利範囲をより精緻に解釈



侵害予防調査×先行技術調査による精度向上（今後追加予定）

他社特許に関わる先行技術調査を同時に実施することで、他社特許の本質・権利範囲をより精緻に解釈

これよりデモ実演をいたします。
実際の挙動を確認いただき、具体イメージを付けていただきます。

対象特許の本質を捉える重要なヒント

従来技術のどんな課題をその発明が解決したのか

左方

|

関連する先行技術



無料トライアルのご案内

お預かりしたデータを分析し、結果を一緒に確認



この後のアンケート内の「個別無料相談」からお申し込みいただけます

アンケートへのご協力依頼

ウェビナーご参加の皆さまへ

本日はウェビナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

ウェビナー終了後に **Zoomからアンケート** が送信されます。

今後の内容改善や、貴社の課題解決に向けた提案に役立てたいと考えております。

アンケートにお答えいただきましたら、本日の資料を送付いたしますので、是非、アンケートへのご協力をお願いいたします

所要時間は **約1～2分** です。

アンケートへのご回答、お願いいたします。
ご参加、ご清聴のほど誠にありがとうございました!!



問い合わせ先
sales@emuniinc.jp

